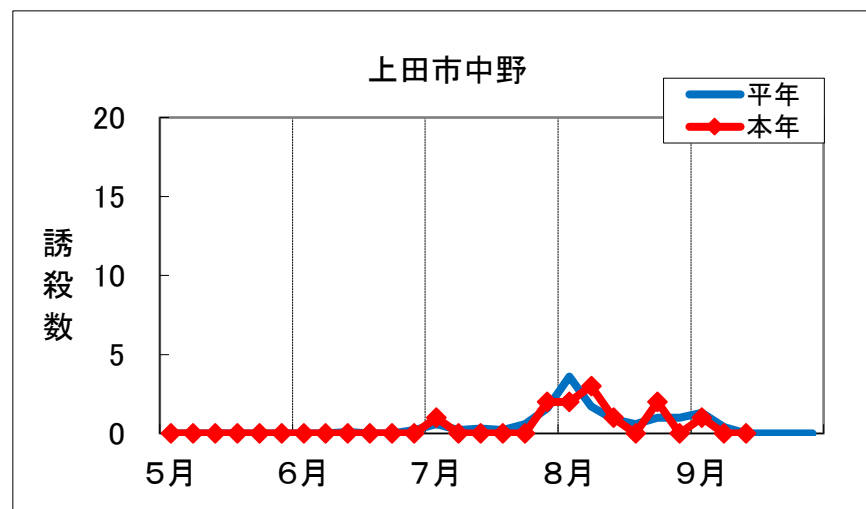


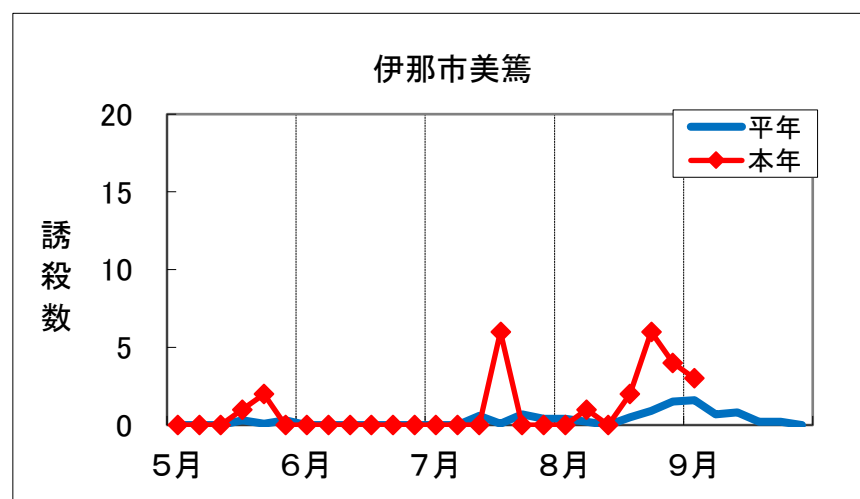
予察灯によるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の誘殺消長

【令和7年・(2025年)】

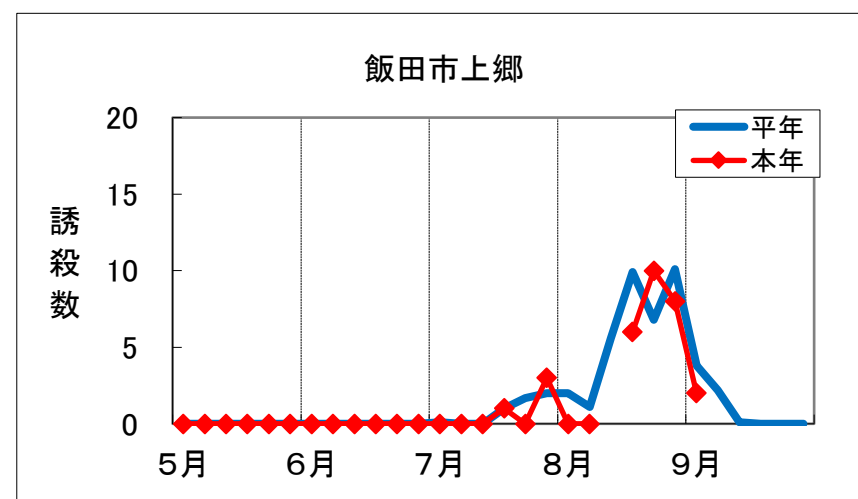


※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均

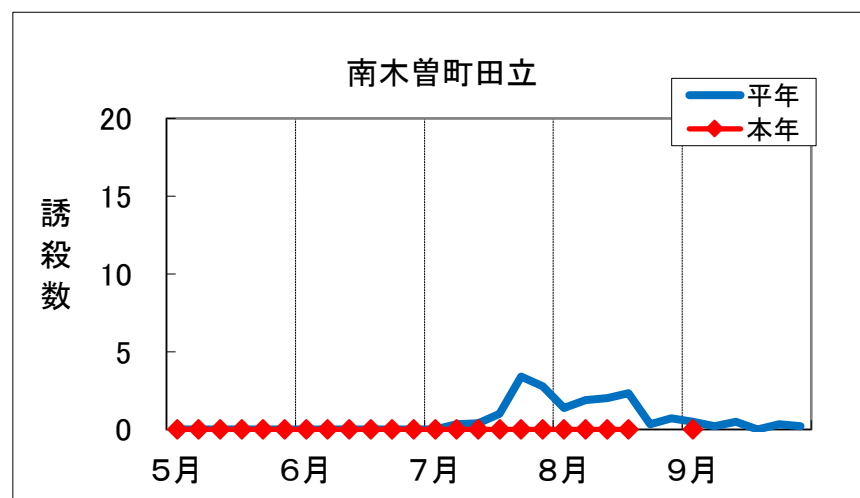
・上田市では、7月第1半旬に1頭初誘殺され、以降はほぼ平年並の誘殺頭数でした。
 ・伊那市では、5月第4半旬に初めて1頭が誘殺され、続く第5半旬には2頭が誘殺されました。その後しばらく誘殺は確認されませんでしたが、7月第4半旬に6頭が誘殺されました。以降はほぼ平年並の誘殺頭数でしたが、8月第5半旬以降は平年と比べて多い誘殺頭数となりました。
 ・飯田市では、7月第4半旬に1頭初誘殺され、その後はほぼ平年並の誘殺頭数でした(8月第3半旬は予察灯の電球切れのため欠調)。
 ・南木曽町では、誘殺はありませんでした(8月第5半旬から第6半旬は予察灯の電球切れのため欠調)。
 ・安曇野市では、5月第3半旬に1頭初誘殺され、その後ほぼ平年並の誘殺頭数でした(5月第5半旬から第6半旬、6月第6半旬から7月第1半旬は予察灯の電球切れのため欠調)。
 ・須坂市八重森では、7月第4半旬に1頭初誘殺され、以降はほぼ平年並の誘殺頭数でした。



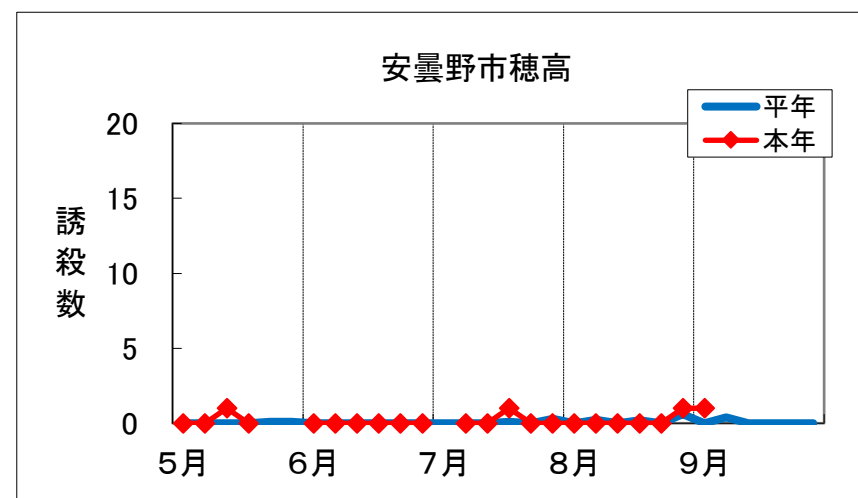
※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



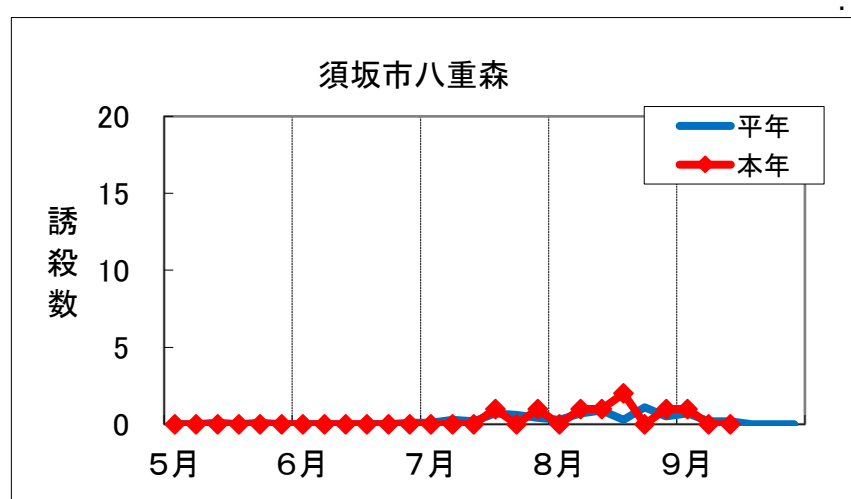
※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均

(参考)

1 発生生態

本県におけるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の発生は、年3回が一般的です。標高の高い地域や、低温の年に発生が多くなります。蛹で越冬し、5月下旬に第1回成虫(越冬世代)が発生します。第1世代幼虫は6月中下旬に発生し、イネの葉を葉縁から台形に食害します。

上のグラフは予察灯で捕獲された成虫数です。

2 防除時期

平年の第1世代幼虫の防除は6月中下旬頃、第2世代幼虫の防除は7月中旬頃、第3世代(越冬世代)幼虫の防除は8月上旬頃です。